

令和4年度第1回高知県産業振興計画フォローアップ委員会水産部会 主な意見等

日時：令和4年7月4日（月） 14:00～15:35

場所：高知城ホール 中会議室（※オンラインとの併用）

出席：委員10人中、9名が出席

議事：（1）第4期産業振興計画 ver. 3 <水産分野>の取り組み状況等について

- ①水産分野の令和3年度の進捗状況及び令和4年度の進め方
- ②連携テーマのプロジェクトの令和4年度の進め方

概要

- ・地産地消や高知市公設水産地方卸売市場の今後について意見があった。
- ・メジカ産業の今後について意見があった。
- ・産地市場の統合について意見があった。

（1）第4期産業振興計画 ver. 3 <水産分野>の取り組み状況等について

（徳廣部会員）

- ・産業振興計画に、高知市公設水産地方卸売市場が入っていない。高知市公設水産地方卸売市場について、県はどのように捉えているのか教えてもらいたい。

（松村部長）

⇒計画には、確かに高知市公設水産地方卸売市場の記載は入っていない。産業振興計画の大きな狙いとしては地産外商があり、県外に売っていくところを計画に位置づけている。高知市公設水産地方卸売市場は、県内での商品の流通の拠点として、県内の魚と、県内にない魚は県外から引いて頂いて県民の皆様への水産物の供給をしていただいております、お力を頂いていると認識している。

⇒産業振興計画には位置づけられてはいないが、水産振興部の予算としては地産地消の取り組みとして、高知の魚を高知でしっかり食べて頂く、食育ということで学校の子供たちへの取り組みを進めているところ。

（徳廣部会員）

- ・高知の魚を全部、県外に売ってしまえば、高知県民は高知の魚を食べられなくなる。外国から輸入した魚を食べないといけなくなる。もっと高知の魚を高知で食べる取り組みに力を入れるのもいいのではないか。外に売るのも大事なことだと思うが、高知で消費することも大事。
- ・高知の魚は県外に魚が豊富にある時はあまり魅力がない。県外の方が高知に来て、高知の魚が美味しいと言ってくれるのは、高知で食べると新鮮だから。高知で消費する方法も考えてもらいたい。
- ・金額は大きいかもしれないが、輸出に関わることができる人間はほんの一握り。輸出が想像にもないような環境で鮮魚に関わって収入を得ている人はいっぱいいる。その人たちのことも考えて計画を作ってもらいたい。

（松村部長）

⇒産業振興計画では、高知県の人口が減っていく中で、外貨を稼いで高知の経済を元気にしていこう

ということを基本に考えており、地産外商が産業振興計画の1つの基本の柱となっている。

⇒ただ、高知の魚を全部、県外に売って、高知の人は外の魚を食べるというわけでもなく、また、観光の面では、観光客からは「高知で食べるカツオは全然違う」と言ってもらっている。県内で美味しい魚を食べられるようにしていく必要はある。

(徳廣部会員)

- ・産業振興計画には地産地消が入っていない。外貨を稼ぐ話しかない。

(松村部長)

⇒産業振興計画では、外貨を稼ぐことを計画の柱としているのでこうした計画になっている。

(澳本部長)

- ・観光客を呼び込むのは別の意味で大事なこともかもしれないが、高知市公設水産地方卸売市場が今後どうなるのか不安に思っているということだと思う。その点についても今後検討していただきたいということだと思う。

(山下部会員)

- ・マダイの養殖は国の補助金もあって全国的に出荷されているが、出荷量ではなく稚魚が入った数量を押さえるのも必要ではないか。
- ・また、土佐清水のメジカ産業は今後成り立つのか。

(津野水産振興課長)

⇒養殖の今後を想定する場合に、種苗の導入状況は大変重要なファクターになると考えている。マダイにおいても、どれぐらい把握できるか今後対応を考えていきたい。

⇒メジカについても、現在、不漁が続いており大変な影響が出ているので、輸入あるいは県外からの購入も想定に入れて各施設の整備、運営にあたっていく必要があると考えている。

(山下部会員)

- ・メジカの仕入単価が50円上がると、産業として成り立たない。メジカが獲れない状況が続いているため、今の漁法だけではいけないのではないかなど考える必要があるのではないか。今後、メジカ産業は成り立たなくなるのではないかと危機感を持っているので、県には意見集約、協議をしてもらいたい。

(津野水産振興課長)

⇒メジカの調達方法、今後の見通しなどについて、各漁協の方を含めてお話を聞かせて頂きたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

(浜町部会員)

- ・ 2 ページ目の水産物の輸出額の目標の修正について、あまりにも修正額が大きいと感じた。備考欄に「大規模水産加工施設の輸出計画の見直しに伴い」とあるが、もう少し詳しく教えてもらいたい。

(濱田副部長)

⇒この宿毛市の加工施設は令和元年7月に操業を始め、重点市場である中国とか米国を中心に販路開拓を行っていた。しかしながら令和2年から新型コロナウイルス感染症の拡大により、海外販路の開拓がストップした。そこで、コロナ禍で好調な国内の量販店に販路を新たに作り、工場自体は現在、順調に動いている。しかし、当初目標としていた養殖魚の前処理加工したものを輸出するところがややできていないということで、コロナの影響を受けた2,3年度分の計画を後ろ倒しするという計画が加工施設から出されたため、県の目標も併せて後ろ倒しにするというもの。

⇒この一つの加工場の輸出の目標額が、10億円を超えるような目標を設定されていたため、今回の大きな修正になった。今後は、令和6年頃には10億円になるという見通しで販路開拓をやっていただく予定になっている。

(浜町部会員)

- ・ コロナがなければこの目標に近い数字になったということか。

(濱田副部長)

⇒たればの話になるが、令和元年には米国との新しい商談をはじめており、中国からの引き合いも非常に多い状況であったので、目標通りになったかは分からないが、かなり近い数字を出せたのではないかと分析している。

(浜町部会員)

- ・ 目標は高い方がいいが、あまりにも絵に描いた餅だと、会社側は厳しくなってくると思うので、そのあたりを踏まえて目標を立てた方がいいのかなと思った。

(濱田副部長)

⇒目標を設定するにあたって、当初は養殖クロマグロの輸出の分量を多くしていたが、昨今の国内でのマグロの消費が活発になってきていることで、ブリ中心の輸出計画に変えている。令和5年の17億円という額には、加工施設一社ではならないかもしれないが、新たな海外輸出を目指す施設が3つほど、コロナ以降、出来るようになるので、そういったところも含めて、浦尻組合長に会長をしていただいている輸出促進協議会と連携して、しっかりと輸出額を増やしていきたい。

(西内部会員)

- ・ 東京や大阪のシーフードショーに出展する際に、ハードやソフトの支援を頂いているが、他県とのバランスはどうなっているのか。最初、シーフードショーに行った頃に、知り合いの東京の社長から「うちは出展費用は全額（都）見てくれている」という話もあった。

- ・また、ブリやタイの養殖に行政の支援が手厚い県があるのであれば、高知県はどのように把握されているのか、ご意見を伺いたい。

(濱田副部長)

⇒シーフードショーについては、当初は高知県も事業者の方々からの小間料（出展代）はいただかない形で数年間やっていた。現在は、県内事業者の方々にも幾ばくかの出展料をいただくことで、規模感を維持し、他県さんと比べても面積的にも遜色のない形となっているところ。私たちのところに直接届く声では、様々な業態のお客様から、高知県は長年に渡って頑張っているよね、というようなお声を頂いている。

⇒ブリとマダイの養殖魚の販売については、県外において高知県のブリやマダイの知名度はあまり高いものではなかったという認識を持っていたが、そうしたことから、関西の卸と組んで、高知県産ということを出してブリやマダイの養殖魚を中心とした高知フェアをかなり多くやっていた。そして令和4年度からは、関東の市場関係者と連携して高知県産のブリやマダイを首都圏の皆様にご購入していただけるような取組を開始しているところ。

(澳本部長)

- ・産地市場の統合は喫緊の課題になっていると思うが、漁協の職員もかなり減ってきている。IoTの関係で自動計量システムの導入も進めているが、なかなかそれだけで現場がまわるとも思えない。どうしても市場統合は避けて通れない。
- ・その場合に、市場統合の施設については、衛生管理型市場ということになりかなり制約が出てきて、費用負担も発生するが、漁協が単独で産地市場を開設することができるのかなという不安が非常に高くなってきている。そのあたりのことについて、県は何らかの手立てを考えているのか教えていただきたい。

(松村部長)

⇒漁協の今後の持続的な経営のためには、市場の数を絞っていくことは必要。一方、食品衛生法が改正されて衛生管理が強化されたため、今後、営業許可を取る市場の整備は、今までのように柱と屋根があればいいというものではなく、囲い等が必要になる。国も市場集約の方向性を出しているので、整備をする上でまずは国の事業を確認して必要なサポートをしていきたい。また、どういう形でどこに集約するのが一番効率的か、今ある漁港の場所に立て直して整備するのが良いのか、それとも抜本的にどこか別の場所に市場を立てるのか、いろんな形があると思うが、今後、漁協と一緒に検討・議論を進めていきたい。

(澳本部長)

- ・早急に手を打たないと漁協が成り立たなくなるのではないかと強い危機感を持っている。早急に手を打っていただきたい。

以上。